

多久市における

武道授業の実践について

多久市教育委員会

佐賀県多久市^{たく}では、平成25年度に、それまで小学校7校、中学校3校あった小中学校が、3校の校舎一体型小中一貫校に再編されました。今年度で3年目になります。9年間のカリキュラムを市全体で作成し、実践しています。9年間のカリキュラムは、独自性を出しながらも、特色ある取組を展開しています。授業では、小中全教職員に業務辞令を発令し、小中教員の相互乗り入れ授業を実践することで、小学校から中学校へのつなぎがスムーズに進むようになってきました。

また、4・3・2制の3段階の区切りを活かすと共に、体育大会などの学校行事では1年生から9年生までが一緒に参加するなど縦割りの活動に取り組むことで、中学生の小学生に対する思いやりの心も育っています。



孔子と多久聖廟。聖廟とは、聖人の霊を祀った廟のことで、儒学の祖である孔子を祀るために1708年多久四代邑主（藩主）多久茂文^{たけふしげふみ}によって創建されました。茂文は人材育成に重きを置き、東原^{とうげん}岸舎^{しやうしや}とよばれる邑校^{ゆうこう}を建て、その象徴として多久聖廟を創建しました

1 はじめに

平成24年度から武道が必修化になりました。佐賀県では、平成21年度より、文部科学省委託「地域スポーツ人材の活用、実践支援事業」や平成24年度からの「中学校運動部活動地域連携再構築事業」、「武道等指導充実・資質向上支援事業」など、地域のスポーツ人材の積極的な活用を授業や部活動の武道などに取り入れてきました。

多久市でもこれらの事業に取り組み、小学校体育の授業や柔道、剣道などの部活動に専門的な技術を持った地域のスポーツ人材を活用してきました。

更に平成24年度からの文部科学省委託「武道等指導推進事業」では、平成26年度に多久市立中央中学校が武道（柔道）の研究指定を受けた。研究実践に取り組ましました。

2 中央中学校「武道（柔道）」の実践

1 研究テーマ

「生徒が安全・安心・意欲的に取り組む柔道の授業づくり」地域

夫を加えて」

2 実践研究のねらい

(1) 地域の指導者の専門的な知識や

3 実践研究の課題

(1) 課題について

体力の向上を図り、生徒が自発的・意欲的に取り組むことができるような指導法の在り方や学習教材の工夫

(2) 期待される成果（仮説）について

地域の指導者との協働授業を行うことで、生徒が専門的な知識や技能を学ぶことができる。ともに、意欲的な活動につながり、生徒の技術面の向上のみならず教員も指導力の向上が図られるであろう。

4 課題を解決するための具体的な実践について

な実践について

5

指導と評価の計画（次頁別紙）

6 研究の実際

(1)活動の場の不足への対応

柔道の授業では、男女に分けて指導を行う場の設定を行った。

しかし、50人近い生徒が一斉に柔道場の畳で体を動かすことは、接触での事故やけがが起きる危険があった。そのために対応として、器械運動で利用するロングマット8枚を敷き詰めて活動の場を1・5倍に広げる工夫を行った。これは器械運動の

授業で、柔道場の畳をマット代

授業で、柔道場の畳をマット代わりに使うことを利用した逆転の発想からである。

(資料1写真)

(2)地域の指導者の活用

教員2名と有段者である地域の指導者を含め、3名で指導にあたることにより、一人ひとりの生徒への細かい配慮や常に活動場所の安全確保だけでなく、生徒の活動状況（受け身、寝技、立ち技）に応じた指導を協

働して行った。地域の指導者からの説明、模範演技では、生徒のまなざしや表情が特に真剣になり、指導効果が上がった。

(資料2写真)

(資料2写真)

(3) 受け身の解説シート

このシートは文部科学省発行「柔道指導の手引」の中から受け身の段階練習が記載されている6ページ分を抜粋し、ラミネートをかけ、リングでまとめたものである。受け身練習が段階

(4) ICT機材の活用

ICT利活用については、見学者に端末を持たせて、資料揭示や動画撮影を行う役を担わせただ。生徒は少しの説明をしただけで簡単に操作を覚えることができる。見学者にも役割を与えることによって、授業に参加していることを実感させることができ、自己肯定感の高まりにも効果があつた。

端末は、iPad miniを使用した。撮影から再生までの操作が簡単であり、プロジェクターとの接続も比較的簡易であるため、準備等の手間も大きく省けた。

(次頁資料4写真)

資料1 【活動の場の不足への対応】

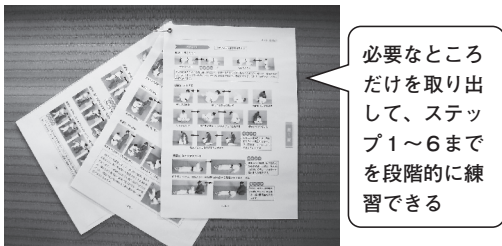
道場だけの場では狭いので、ロングマットを敷き詰めて

資料2 【地域の指導者の活用】

技の模範を示したりするときはT1と一緒に組んで

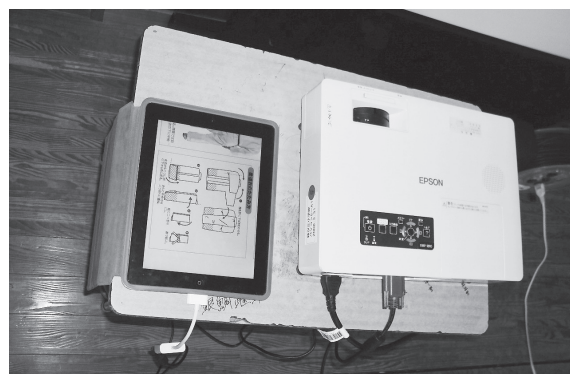
資料3 【受け身の解説シート】

解説シートを手本に自発的・段階的な練習を促す

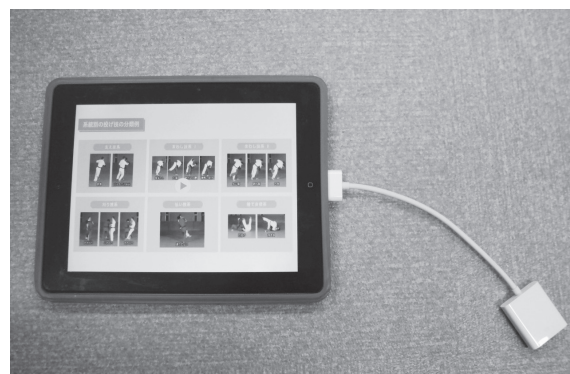


5 指導と評価の計画（9時間）

時 間	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ねらい	学習計画の確認	固め技の抑え方、応じ方を習得する		受け身と基本動作を習得する			学習した技を使用して攻防を楽しむ		学習のまとめ
0分	オリエンテーション ○学習の進め方などを知る。 ・特性や成り立ち ・伝統的な考え方 ・柔道衣の取り扱い方 ・安全面 ・礼法 ・グループ編成 ・学習カードの活用	○固め技の練習 ・固め技の定義とルール 抑え込みの条件 ・基本動作 体を開く、脚を回す、体をそらす等 ・抑え技の発見 （おおむけの相手を自由に押さえ込む） ・基本的な入り方と返し方 ・姿勢…抑え方、応じ方 （けさ固め） （横四方固め） （上四方固め） ・体のさばき	○固め技での攻防を楽しむ ※攻防の展開（30秒程度） ・背中合わせの長座から ・ひざ立ちから	○基本動作 ・姿勢と組み方 ・進退動作 ・崩しと体さばき	○投げ技の練習 ※約束練習 （膝車）（支え釣り込み足） （大腰）（体落とし） （大外刈り）（小内刈り） ・自己の技能や体力の程度に応じた技を選択し、行う ・仲間と協力して、積極的に練習を進める	○単純な試合におけるルールや審判の仕方を学ぶ ○攻防の展開（簡単な試合） ・簡単な試合を通じて攻防を楽しむ 《ルール》 ・全員右組での攻防 ・既習技のみでの攻防 ・同程度の体格や体力の者	○固め技の確認 ・簡単な試合におけるルールや審判の仕方を学ぶ ○攻防の展開（簡単な試合） ・簡単な試合を通じて攻防を楽しむ 《ルール》 ・全員右組での攻防 ・既習技のみでの攻防 ・同程度の体格や体力の者	・あいさつ 健康観察 ・技の確認 ・簡単なルールでの試合	
50分	○学習の流れ	○次時の確認 ○本時の振り返り	○受け身の練習 （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身） ・（前回り受け身） ・（進退動作と受け身） ・（崩しと受け身） ・（受の姿勢と取の姿勢） （後ろ受け身） ・受の姿勢と取の姿勢《受け身の命綱》 （横受け身）						



プロジェクターとの接続



掲示用の学習端末



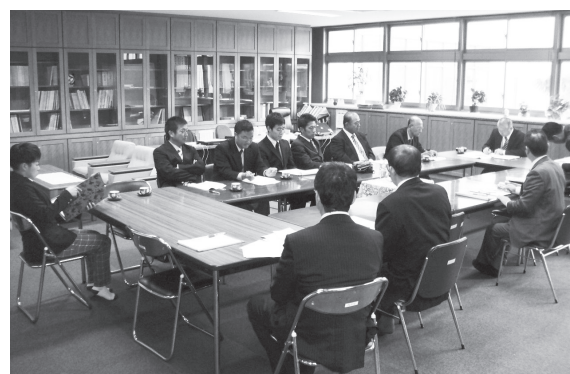
研究授業の風景②



研究授業の風景①



授業研究会の風景②



授業研究会の風景①

これらの3因子を計るために、柔道の授業前後で「運動有能感アンケート」を実施した。

③受容感……教師や仲間から受け入れられているという認知に関する因子。

②統制感……自己の努力や練習によって、運動をどの程度コントロールできるかという認知に関する因子。

①身体的有能さの認知……自己の運動能力、運動技能に対する肯定的認知に関する因子。

3因子は、次の3点である。

「運動が好き」だと生徒が感じるためには、「運動への内発的動機付け」を強めることが必要と言われている。その内発的動機付けを強めるためには「運動有能感」を高めることが重要である。運動有能感を構成する

(8)武道（柔道）の授業前後に関する「運動有能感アンケート」

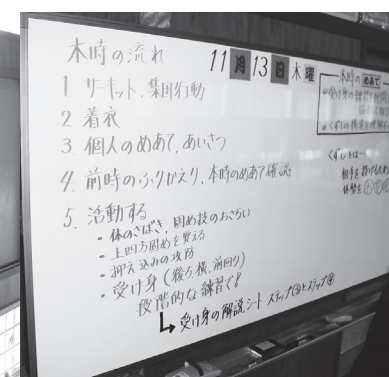
「運動が好き」だと生徒が感じるためには、「運動への内発的動機付け」を強めることが必要と言われている。その内発的動機付けを強めるためには「運動有能感」を高めることが重要である。運動有能感を構成する



使用した iPad mini



解説シートの保管



学習黒板

(5)言語活動をよりよく展開させるための「学習カード」

「学習カード」には、授業の振り返りをするときに、指導者があらかじめ指定した語句を使って書くように指導した。生徒が自分の言葉で説明できることも言語活動の一つととらえて取り組ませた。生徒は、その日の授業でどんなことを習い、どう活動したかを考えながら「学習カード」を書き進めることになるので、知識・理解を深めること

(6)文部科学省発刊の学習教材の活用

柔道の授業を進めるにあたって、指導案の作成から学習教材の資料までを参考にしたのは、平成25年3月に文部科学省から発刊された「柔道指導の手引」とDVDである。受け身の解説シートもこの手引からスクリーンで取り込んでプリントアウトして利用した。iPad miniには、

(7)授業研究会の実施

上記6項目の検証を行うために、校内だけでなく、小城・多久地区の保健体育科教員の参加や県教育庁学校教育課からの講師を招いての授業研究会を実施した。柔道の授業に関する日ごころからの疑問点や指導の在り方について、忌憚（きはん）のない意見が数多く出された。

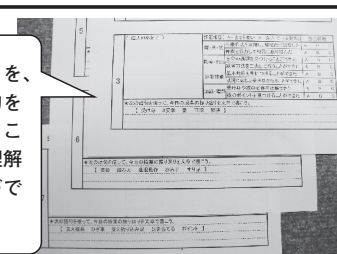
資料4【ICT利活用】
見学者に協力してもらい、資料掲示や動画撮影

iPadの方が撮影→動画再生などの操作が簡単にでき、プロジェクター対応も比較的小さいです



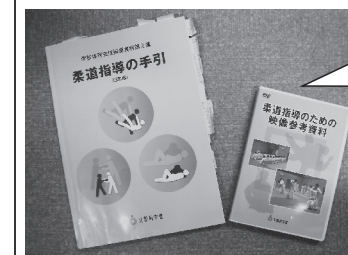
資料5【言語活動の手助けとなる学習カード】
自分の言葉で説明できることも言語活動の一つ

授業の振り返りを、指定された語句を使って書かせることで、知識・理解も深めることができる



にも役だった。
(資料5写真)

資料6【文部科学省発刊の学習教材】
平成25年3月に発刊された「柔道指導の手引」とDVD



DVDの映像は、あらかじめ学習端末にダウンロードしておく、授業で活用しやすい

DVDの映像をダウンロードし、いつでも使えるようにした。
(資料6写真)

7 成果と課題

(1) 男子生徒においては、運動有能感の3因子すべてにおいて授業前を上回ることができた。女子生徒においては、「身体的有能さの認知」の因子の項目だけが上回ったが、あとの2因子は下回る結果となった。授業の雰囲気においては、男女ともに前向きで主体的なよい雰囲気の中で

		授業前	授業後	結果
①身体的有能さの認知	1年男子 1年女子	9.395 10.196	10.27 10.215	Up Up
②統制感	1年男子 1年女子	13.750 14.294	14.458 14.176	Up Down
③受容感	1年男子 1年女子	13.062 14.588	13.437 13.784	Up Down

【調査結果】※12項目のうち、それぞれ4項目が3因子となる。
5点×4項目＝20点の平均値

授業を進めることができた。

しかし、授業が進むにつれて男子生徒の方が、より積極性が増したと感じられる。女子生徒において、統制感と受容感の2因子が授業前より下回った原因としては、学習仲間への関わり方が男子生徒より苦手だったということが挙げられる。対人的練習が多い柔道の授業で、男子生徒は、女子生徒よりも闘争的な本能が勝っており、「理解できていなくても、まずやってみる」という傾向であったが、女子生徒は痛い思いをしたくないためか、積極性に欠け、「頭の中で理解していても、やろうとしない」傾向が見られた。

安全面における受け身は、「習うより慣れろ」から数多く繰り返し返して指導してきた。しかし、女子生徒については痛みが先に出了ようである。

今後、女子生徒については授業時数を含め、指導内容を再検討する必要がある。また、女子

3 終わりに

生徒の指導に対しては指導者ももっとほめ言葉を増やすことで、できなかったことができるようになった喜びや次の活動への意欲を高めるようにしていかなければならないと考える。

(2) 学校と地域が密着した武道（柔道）実践の充実を図ることができた。今後の実践に向けて学校と地域の橋渡しとして本実践は重要な役割を担っている。

しかし、更なる充実展開のためには、また、指導成果を上げるためには、限られた時間枠の中で、計画段階から地域の指導者と共に学習教材まで含めた内容の検討を十分に行っていくことが課題である。

多久市では、平成25年度から全市挙げて小中一貫教育を実施して

います。平成28年度からは、学校と地域が更なる連携、協力関係を強化するために、全市挙げて、コミュニティ・スクールがスタートします。現在、各一貫校ごとに学校運営協議会を設立するための準備を進めています。コミュニティ・スクールが地域挙げて、学校を応援していく点で、地域のスポーツ人材の積極的な活用が更に進んでいくことが期待されます。

また、武道や他のスポーツクラブにおいて、小学校では社会体育の中で活動が行われていますが、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの実践を考えれば、小学校の指導者が引き続き、中学校で武道や他のスポーツの部活動の指導に関わることが可能になってきます。スポーツ面の指導においても義務教育9年間のスパンで考えることができるようになり、学校と地域活動者がなお一層の連携を生かした、充実した教育の展開が可能になることが期待されます。

即心館 弓道講義

弓射に現れやすい欠陥とその矯正



茨城県の自宅に弓道場「即心館」を開いた張替謙一氏が、「弓道教本」を基に、また「弓射に現れやすい欠陥とその矯正」について、長年綴ってきた文章をまとめた本！

最新刊！
好評発売中！

張替謙一 著／定価（本体2,000円＋税）

本書の主な内容

- 第1部 即心館版「弓道講義第一集」 射法八節詳解
- 第2部 即心館版「弓道講義第二集」 弓射に現れやすい欠陥とその矯正について
- 第3部 「弓道講義」附録一 弓射の手引き第一集 基礎編
- 第4部 「弓道講義」附録二 弓射の手引き第二集 射術編「八節抄解」

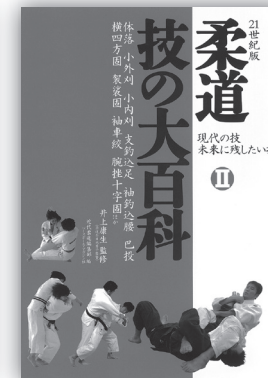
柔道 技の大百科

21世紀版

現代の技
未来に
残したい技
好評
発売中



I
背負投
一本背負投
内股／払腰
大内刈／大外刈



II
体落／小外刈／小内刈
支釣込足／袖釣込腰
巴投／横四方固
袈裟固／袖車絞
腕挫十字固 ほか

金丸雄介、篠原信一、中村佳央、中村行成、上野順恵、杉本美香、田辺陽子、瀧本誠、塚田真希、福見友子…オリンピック出場選手らが、それぞれの独自技術を公開！

井上康生（柔道全日本男子監督）／監修
近代柔道編集部／編 各巻定価（本体2,000円＋税）